

モデルプログラム 展開例2

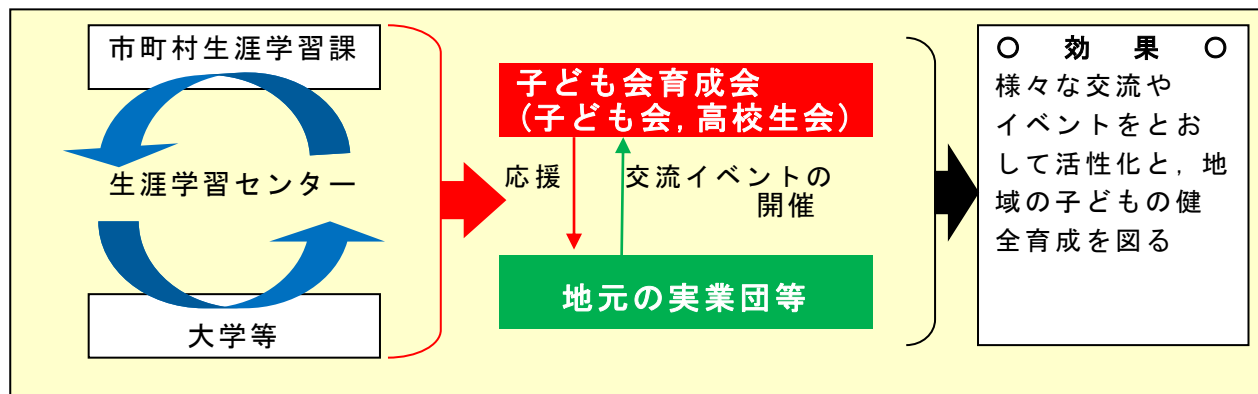
プログラム名

子ども会等の健全育成とジュニアボランティアの育成
～地域に関係する団体との交流や活用をとおして～

1 ねらい

地域に関係する団体との交流や団体の有効活用を積極的に進めることで、子ども会や高校生会等の健全育成を図り、地元意識や郷土愛を高めていくことにつなげる。

2 プログラム開設に向けて



○市町村の生涯学習担当者の役割

- ・ 活性化を図りたい子ども会等（団体）をリストアップまたは、絞り込む。
※子ども会全体（育成会）か、1子供会か、新興住宅地の子ども会か、など
- ・ 当該域で活動している諸団体をリストアップする。
大学所属の各種団体、実業団のチーム団体、ボランティア団体等
- ・ 子ども会と地域団体との間をコーディネートする。
（どの団体と、いつ、どんな形・方法で）
- ・ 交流会等のイベントを企画・運営する。

○県生涯学習センターとしての関わり

- ・ 各市町村生涯学習課からの相談を受け、大学等関係機関の紹介など連携を図り、課題解決に向けて協力する。
- ・ 事業の推進に向けて、コーディネートを行う。

3 期待される効果

- (1) 「子ども会」等の活性化につながる。
- (2) 世代間の交流をとおして、個々の幼児・児童も活動的になってくる。
- (3) 中・高校生をボランティア等でマッチングすることで、ジュニアボランティアの育成につながる。
- (4) チーム・団体の地域認知、社会貢献度が高まる。

4 モデル事業（城里町「城里っ子育成事業」）の様子



Ｊ２水戸ホーリーホックとの交流会